

開成の杜

第69号 ● 2005年12月20日 ● 郡山女子大学大学院 ● 郡山女子大学 ● 郡山女子大学短期大学部 ● 郡山女子大学附属高等学校 ● 郡山女子大学附属幼稚園

● 発行所 / 学校法人郡山開成学園 〒963-8503 郡山市開成3丁目25番2号 ☎ 024(932)4848(代) <http://www.koriyama-kgc.ac.jp> ● 発行人 / 学園長 関口富左



62年館屋上より見る耐震構造校舎の北東部

(撮影 山口郁生)

今年の「もみじ会」は、自然の状況も例年より一層多彩であったのか、学生・生徒各自の対応も旺んで、研究成果も見事であった。また、高齢者、婦人会の方々の招待に、学生達のマナーも優雅な対応の実践を学び得たようであり、意義ある状況を醸し、地域社会との一層の交流を成し得たとみた。

学園は、創立以来の耐震工事も順次進み、安心・安全を増築してきたが、これら工事の折に建物の外装塗装を行った。比較的新しい建記念講堂や、創学館の外装の色調を基本として、全館家政学館・62年館・83年館・本館・高校校舎・幼稚園舎等同一色彩としたが、これらは視覚的に拡大され、新たな構造群となつて現出した。しかも、深い濃緑の神杜の杜を背景としているだけに、白亜の全校舎群が若者にふさわしい新鮮さを表現し、快適である。次年度は創立六十周年記念の年を迎えるだけに、改めて新鮮さと、快適さを表現した。

また一方、創立以来継続し、その効果を高めている芸術鑑賞講座が百四十九回の実施に至り、多くの感動を得た。この間、度々女流絵画展を実施してきたが、更にこの時に当り、著名女流画家の作品を一堂に介し、「それぞれの美への憧れ、女流画家五人展」の開催を試みた。第百二十一回に荘司福展を、第百二十六回に三岸節子展を、第百二十九回に秋野不矩展を、第百四十回に小倉遊亀展を実施してきたが、初めて片岡球子氏を加え各氏のそれぞれ特色ある作品を五氏同

時に鑑賞したいとの思いの実現を望んだ。幸い豊橋市美術館館長金原宏行氏の強力なご尽力を戴き、十月十七日より十一月三日の長期間、本学記念講堂ギャラリーにて開催できたことは、何にもまして希有なことであり、最高のことといえよう。三千余名の女子学生・生徒が鑑賞の時を得たことは、自己との関わりの中に感慨を生み、将来への努力や勇気、生きる光をも得たことで、何にも増して感性教育として終生心に記されることであろう。学生・生徒達の全感想文には、諸先輩の名絵画に接し、多くの感激を得ていよう。百歳にも至る諸先輩の名作品に、若者たちはそこに生きる力を得、人生への強力な啓発を得たようである。感動は将来への前進の発動力と成りえたとも述べている。

今年もそろそろ歳末が近づいて来る。一年の終りに近づく、年間の事々々を想うことしきりである。まして、最近の社会状況を限る限り、決して善き方向へと進展しているとは限らない。こんな時、せめて校内だけでもと自ら心は内に向う。幸い、学生達はクラブに部活等に、努力の結果に聴くべきものがあつた。高校で挙げれば、新編成したマーチングバンドが東北金賞。新体操団体が県優勝。剣道、県優勝。バレー部、県優勝。放送部、県アナウンス最優秀。大学、短大は合唱で「開成の杜女声合唱団」が全国金賞。大学食物栄養学科教員外学生三名が最優秀賞。高校食物科最優秀他優秀賞。美術科ポスター等も旺んである。

日々の放送も新聞も、大人社会はいうに及ばず、青少年社会にも不安定なニュースが流れ、戦後六十年を経る日本の状況を慨嘆しない者がいるだろうか……。

時は秋、みよりの秋、自然は木々を染め、変らず実りの時を知らせている。自然に聴こう。

(日17・11・22記)



学園長 関口富左

「みよりの」

人間守護の「家政哲学」が国際的評価を受ける 国際学術雑誌「11月号の書評で絶賛

本書の必須科目「家政学原論」の教科書である「家政哲学」(関口富左本学長 編著)の英訳本が出版され、昨年度で開成された国際家政学で紹介された。

これを受けて、カナダ国マウント・セント・ウィンセント大学教授のスー・マクレガー博士の書評が「国際学術雑誌：家政学」の本年十一

A Philosophy of Home Economics Establishing Home Economics as a Discipline for Human Practices. Seiguchi Fumi (Editor). (1977) 2004 translation (in English). Fukuoka, Japan: Published by Kyoritsu Women's University Press. Price 2265 yen. ISBN 4-99027413-1. 212 pages. <http://www.kyoritsu.ac.jp>

For many years now, I have been part of a small cohort of home economics philosophers from North America, Europe and Australia. We have been calling for attention to the paradigm and philosophical underpinnings of their practice. We have been asking people to be reflective about the relevance of their practice in the context of a changing world. It is my absolute delight to bring to your attention a new book (well, a new look at an old Japanese home economics) on home economics philosophy, edited by Seiguchi Fumi (head author) and co-authored with Takahara Shikun, Kageyama Wataru and Marlene Hiltunen.

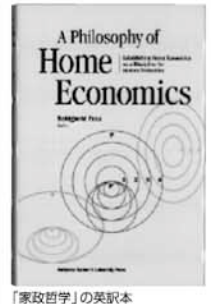
The book was first written and published in Japanese in 1977 (almost 30 years ago). It has been used as a text for the philosophies of home economics at Kyoritsu Women's University ever since (the editor founded the university and the co-authors teach there). It was



論文の書評を開成した学会誌

山本 真船均)として紹介する。

月号に掲載された。書評編集長であるマクレガー博士は「家を守護する重要性を唱える本書は時宜を得て実証的である。著者たちが様々な哲学者からの思想を共に織り上げ、それらを家政学はどうあるべきかへと関連付けていくその理論の明快さには、美があつた」と絶賛、世界の見聞交換を望みたいと提案している。以下、その書評を翻訳する。



「家政哲学」の英訳本

- 家政学と人間の状況
- 人間中心の環境
- 守護空間の指向
- 住居と人間生活
- 最初の人間守護原理と家政学
- 家政学における公的領域と私的領域
- 教育と安定維持
- 人間性のための場所としての家屋

私たちは、私たちの専門を如何なる名称で呼ぶかを世界的規模で議論している中、本書は「家」の概念に関して深く哲学的な議論を提供してくれる。本書は、家屋の守護性と家族の生活における人間の健全性に焦点を合わせている。本書が提示する哲学は、住むことは人間と世界の間の関係のことであり、住むことはまず家の中で行われ、次に家を媒介として世界の内部で行われる、というものである。人間の究極の本質は、人間の住むことの本质(どこにいかに住むか)と強く結びついている。ボルローの被護の概念(一九六三年)もまた、本書で採り上げられている哲学を補強している。「家は人間の面が何よりも先ず維持される場所であり、休息の環境の場であるそこで、人間性が真に高められるのである」(関口氏、八六頁)。人が絶望する時、自己喪失を経験する。人間守護と共に希望が生じ、その希望と共に実存的絶望は阻止される。これは、まさに家

政学者に提示された価値ある洞察である。ボルローの哲学をまず探ってみようとする読者が出るであろうから、私は、手始めにNold Egerterの論文(一九九二年)を読まれることを勧める。

関口氏は、本書の最初の一行でこう語る。「私たちは大胆にも『家政哲学』という耳慣れない用語を使い、新しい学問分野を確立するつもりである。それを世界に提示する。何と驚くべきことに、世界の方で傑出した北米の家政哲学者が同様の事を書いていたのである。即ち、Marjorie BrownとBeatrice Paulsの両氏である。彼女たちは一九七九年(本書出版の二年後)に家政哲学書を出版したのである。両氏は、もう一人のドイツ人哲学者、Jürgen Habermasに依拠したのである。今や、誰かがこれら二つの思想母体の比較分析を絶対に行わなければならないとなった。

世界的規模でホームレス、難民、流民そして強制移民問題が生じている中、家を守る重要性を唱える関口氏たちの本書は、時宜を得て実際に

大きく、健やかに まっすぐに育て 遊々の森で森林学習 一附属高校



下校刈りをする生徒たち

本校では、十一月七日から九日までの三日間、三年計画の最終年にあたる「遊々の森」体験学習を、紅葉の美しい郡山市熱海町地内の「戦手山」開成の杜で実施した。

本年は体験学習の事前学習として、十一月二日に福島森林管理署署長の由田幸雄氏をお迎えし「森のはたらき」について講演を頂いた。地球環境の保全と緑化思想の大切さをあ

たためて学ぶことが出来た。この三年間を振り返ると、「大きく育て」と下草を刈り、「健やかに育て」と掘枝払いを体験した。木を良く育てるためには、時間と土壌と努力をかける事の大切さを実感した。まるで、人が人を育てる、そして地球環境を整える事にも相通じることなのである。

平成十八年度入学者選抜が始まる 大学・短大

本大学と短期大学の平成十八年度入学者の選抜が始まった。AO生選抜は、六月から受付を開始し、面接Ⅰをパスした者が十月十五日までに面接Ⅱを終えた。合否結果は本

人宛てに通知している。

指定校生、特待生、公募推薦生Ⅰ期と特別生Ⅰ期の選抜は十一月五日に大学。短期大学部は十一月五日と六日に実施した。

続くⅡ期選抜は十二月三日と四日に大学と短期大学部が実施した。応募者が前年を上回った科もあり、本年も順調に推移している。

大学・人間生活学科が 来春から三コース制へ

大学の人間生活学科は平成十八年度からコース制となり、生活総合、福祉、建築デザイン、の三つのコースでスタートする。

◇生活総合コースは、今日の多様な生活問題を解決する総合的な能力を身につけることができる。

◇福祉コースは、福祉の本質を究め、理論と実践を学ぶ。

◇建築デザインコースは、住に関する高度な専門的理論と技術を学ぶ。申請中だった一級建築士の受験資格(実務経験二年)取得に認可が下り、また、従来の二級建築士受験資格は実務経験なしで取得できるようになった。東北、北海道地区でこのような建築士資格を取得できる女子大学は本学のみである。

秋空の下中学生が集い 第二回体験入学会開かれる 一附属高校

平成十七年度第二回体験入学会が十月二十九日、中学生、保護者、教員百十余名を迎えて開かれた。

今回は体験教科は国語・数学・英語・情報・音楽・美術・食物、それに部活動で実施された。参加した中学生は真剣な眼差しで、高等学校の雰囲気浸っていた。昼食後、音楽科生徒と音楽部によるミニコンサートを鑑賞。閉会式では安積第一中学校の大和田英美さんが感想を述べた。

平成十七年度第二回体験入学会が十月二十九日、中学生、保護者、教員百十余名を迎えて開かれた。

今回は体験教科は国語・数学・英語・情報・音楽・美術・食物、それに部活動で実施された。参加した中学生は真剣な眼差しで、高等学校の雰囲気浸っていた。昼食後、音楽科生徒と音楽部によるミニコンサートを鑑賞。閉会式では安積第一中学校の大和田英美さんが感想を述べた。

創立六十周年を前に 女流画家五人の名画を揃えた美術展

画家の魂にふれ感動の芸術鑑賞講座



テープカットで開会を祝う

本学園が来年度に創立六十周年を迎えるのに先立ち、記念の芸術鑑賞講座「感性の庭に知の花はさく」それぞれの美への憧れ―女流画家五人展―小倉遊亀・片岡球子・三岸節子・秋野不矩・荏司福福

子・秋野不矩・荏司福福が十月十七日から十八日間、建学記念講堂ギャラリーで開催された。日本の女流画家シリーズは平成十一年から始まり、これまで荏司福福・三岸節子・秋野不矩・小倉遊亀の各氏を紹介し、本学園ならではの企画展と高く評価された。

今回は、記念展に相応しく片岡球子を加えてのシリーズ集大成。初日の開場式では、小倉遊亀さんの孫にあたる小倉節子さんを来賓にお迎えしてテープカットで開会を祝った。

展示作品は小倉家秘蔵の「八重樫」を始め、一般公開は初めてという片岡球子の「富士」・秋野不矩の文化勲章受賞後の作品「砂漠のガイド」等々三十一点。全国的美術館や個人愛蔵家のご協力により、貴重な名画が揃い、学内はもとより一般公開(無料)され会期中は連日美術愛好者で賑わった。

入場者は本学の学生、生徒を含めて約五千人弱。中には「最高の贅沢」と毎日足を運ばれ、お目当ての絵を鑑賞するご婦人も見受けられた。また、「作者のパワーに圧倒された」「画家の魂に触れ感動した」と感想を寄せる方も多く高揚した気分を語ってくれた。

また、期間中、荏司福福の「霧林」を織った講堂大ホールの一級帳を特別公開した。

本学園では芸術文化教育として創立以来「芸術鑑賞講座」を年間三、四回開催している。音楽、演劇、古典芸能、絵画展等の実施が感性の教育として定着している。



賑わった五人展会場

女流画家五人の眼を開く

五人の展示作品とその作風を解説し、鑑賞の手引きとした。

小倉遊亀 今回は花をテーマに静物画を飾ったが、余白の中のバランス、花瓶等へのこだわり、金や銀を使うことで花の香りが漂う感じを出し、高雅な味わいがある。

片岡球子 日本画壇の最長老、本年百歳を迎えた。今回「富士山」を五枚展示したが、球子ははじめ火山をテーマとした作品を発表した。後に富士山を取り上げ球子風にぐいぐいと男性的に描く。華麗な色彩と線描が特色。

三岸節子 女流洋画家のバイオニア的存在。抽象画の「飛ぶ鳥」は、学生たちには分かりにくいと思うが、氏の特徴を一途に表現している。そころの中で見てほしい。

初めに、近代美術史の誕生と流れを、スライドを使用しながら紹介。続いて画壇で頭角を表した女流作家



講演する金原教授

講師は 常葉学園 大学教授 豊橋市 美術館 館長の金原宏行氏。

芸術鑑賞講座「女流画家五人展」を監修していただいたことから、五人の画家がいかに個性表現を確立し、どのように生きたかをテーマに五人展を解説した。

秋野不矩 インドを十三回も訪れモチーフを見つけた。インドの民家の壁を日本画で描いて注目された。「ラジャーの寺院」は空の色がよく出ていて、建物ごとつりと大地の中にあるところをよく見てほしい。

荏司福福 「霧林」は樹林の中を流れる空気が感じられる。郡山開成学園所蔵で講堂の緞帳にもなった作品。「北辺春」は水辺に咲く桜を描いている。桜は非常に難しい。細かいところを見すぎると失敗するが、作者は大きな塊として捉えている。バックの林との構成に実写から離れた自然に従う精神が漂っている。

五人の画家が戦前、戦後を生きていて制作に励み、個の表現の自立をめざした足跡は見事であった。

附属高校の平成十七年度修学旅行は十月十一日から十五日まで五班に分かれて実施し、歴史と文化を学び一回り成長した姿で帰ってきた。

特集 学びの旅 附属高等学校修学旅行



中城城跡にて



GAM(クラシシジョー)上部奥志願城跡にて



被爆体験講話者への御礼を述べる筆者



演奏会のチラシ

沖縄の世界遺産「中城城跡」

自然科学系「一歩 増井千紗」私は、初めて沖縄へ行つて、多くのものに感動し、学ぶことができた。特に私は、五年前に世界遺産に登録された「中城城跡」が印象に残っています。中城城跡は三百余年ある沖縄のグスクの中で最も遺構がよく残っていることで知られており、石垣の上に立つと西に東シナ海、東に太平洋

沖縄 平和の誓い

総合学芸「一歩 篠原有貴」私たちは沖縄を訪ねました。そこで戦争に関わる様々な場所を訪れ、今私たちが当たり前だと思っている平和な生活がいかに大切か、身に染みて実感しました。特に印象に残っているのは、ひめゆりの塔とガマです。ひめゆりの塔では私たちと同年代の女の子が看護婦として従軍していた事

古都から長崎へ

人文系国語「一歩 後藤麻紀」私たちのコースは京都、奈良、長崎への四泊五日の旅。京都では千一休の観音立像が肅然と並んでいる三十三間堂、「清水の舞台から飛び降りた気持で」と言われる清水寺が特に印象に残りました。奈良の東大寺や法隆寺は、その偉大さに圧倒されました。日本の古い歴史に触れて

ウィーンフィルハーモニーを聴いて

音楽科 渡辺 歩 十月十三日、奈良・京都見学のあと大阪のフェスティバルホールで、ウィーンフィルハーモニーを鑑賞しました。会場は凄く広くて、音響も素晴らしいです。指揮者のムーティがステージに現れた瞬間、不思議な緊張感でいっぱいになりました。シューベルトの「未完成」から始まり、モーツァルトの「協奏交響曲」などの有名な

を望み、勝連半島、知念半島などの島々まで見渡せる眺望のすばらしいところ。海に親しみ、私にとつては、東シナ海、太平洋と一緒にいることができたというのはとても驚きでした。

私は、「中城城跡」だけではなく、「首里城」などすばらしいところを多く見学することができました。充実した修学旅行でした。

私たちはこの素晴らしい文化遺産を後世へ伝えるために守っていかなければならないと思いました。最後の見学地長崎では、被爆された方のお話を直接お聞きしました。原爆の傷跡は私たちの胸に平和の尊さを強く刻み込んでくれました。級友と寝食を共にし、日頃見れないものに「一喜一憂したことも今となっては良い思い出です。

曲から、コンサートではあまり演奏しない曲まで、バリエーション豊かなプログラムで、本当に感動しました。中でも一番感動したのは、シューベルトの「未完成」でした。楽章で書き終わってしまつたのに内容はすくなく感動的でした。今回、修学旅行でこの演奏会を通して音楽の世界の素晴らしさをあらためて実感しました。

大学院・大学

人間守護を目的としてよりよい研究と実践の成果を分かち合う

【大学院】
「人間守護の観点から牛肉の安全性の問題を捉える」。

【家政学部人間生活学科】
統一テーマは「生活の安全と安心を考えよう」。

テーマに、生活習慣病の現状を示し、栄養診断を行って指導した。



食の問題について意義ある展示



福祉コーナーでの介護食体験



旬の素材を生かした秋彩弁当



管理栄養士をめざす学生がコンピューター診断

短期大学部

【生活芸術科】
グラフィックデザイン、絵画、彫刻、工芸、コンピュータグラフィックス、近代詩文書、茶道（略）等九部門で発表された。



絵画展示。力作が並び

【訪問介護員養成研修講座】
講座受講生が福祉施設の高齢者を招待し交流を通して福祉への意識を高めた。



学生の案内で各会場を見学する招待者

【音楽科】
「もみじ会演奏会」は準備から運営、出演等すべて学生の手になるコンサート。



学生にとっては貴重な発表の場



学生の説明を聞く見学者

【文化学科】
今年のテーマは「道—いきかう文化—」地域文化で学んだ文化と文化が結びつく「道」について考察した。



「紅茶への道」にちなみ紅茶試飲コーナーを設ける



レッツ ダンス！

【学友会ダンス同好会】
結成後初めての発表会。



年に一度のライブ

【学友会・フォークソングクラブ】
—もみじJAM—

附属幼稚園

「ほくたち、わたしたちの作品」
思い思いの表現でのびのびと描かれた作品の数々。



幼児画の展示

同窓会

大学・短大・高校の三同窓会が合同で企画した「同窓会館設立のためのバザー」。



会員が持ち寄った物品を低料金で販売

環境委員会

教育機関としての全国初のエコアクション21認定事業者に登録され循環型社会を目指す本学園の環境対策について発表。



取り組みの現状を解説する

【生徒会・茶道部】



美しく！華やかに！

【生徒会・天文部】



薄茶平点前を披露



趣向を凝らした発表会場

総合評価を実施

もみじ会実行委員会では、研究発表や提言が適切であったかどうかを審査する総合評価を実施している。本年も五名の評価委員が会場を視察、参観者の意見、感想等を聞いた。その結果、発表内容はテーマに沿ってよく工夫されており、努力のあとがみえたという評価。また、昨年同様案内役や説明役の学生が展示内容をよく勉強していた点も認められた。

附属高等学校

教科や学級・部活動など三十九パートで成果発表が行われた。充実した内容が好評であった。

【食物科】
「どんぐり食堂」。調理師をめざす生徒が実演・実習。



接客にもこころがこもる

【第三学年展】

「未来へのメッセージ2005」。ブックアートが注目された。（八ページで紹介）



古典和歌の神髄を習得

【生徒会】

「百人一首・カルタとり大会」。学年別クラス対抗戦。



全国大会出場へ

【生徒会・バスケットボール部】

第二十二回学校長杯大会を開催。郡山第七中学校が優勝した。



13の中学校が参加、熱戦を繰り広げた

【生徒会・マーチングバンド部】



全国大会出場へ

特集
第五十九回

もみじ会

「自然を師として新たな学を」
十月一日・二日開催



地域に向けて発信。研究と実生活を連れいし、役立つ研究成果の発表と展示。



ポスターデザイン 生活芸術科二年 前内 沙織



【学園オリンピック】
学生、生徒、園児、教職員、それに家族会・父母会、同窓会が一党に会した三千人の大運動会が九月二十八日に行われた。全休会のあと大学と高校に分かれて競技した。



赤勝、白勝で、園児の玉投げ競技。天まで届け

教職員・家族会 対抗綱引き

縄飛びで一致団結（大学部会）

ティールーム

コミュニケーション・フォーラム



イラスト 三夫

「旧き良き」

佐久間 勉

押入れの隅からダンボールに入ったレコードが出てきた。三十センチ四方のジャケットから取り出したレコードは、どれもこれもが懐かしかった。しかし、いざ聴こうにもプレーヤーがない。疾うの昔に処分したことを思い出し悔やんだ。

プレーヤーと言えば、その昔蓄音機なるものがあつた。聴くたびに、鉄針をネジで固定して交換するのだがこれが中々面倒な作業で、その上、動力がゼンマイだから、よく巻いて置かないと映画ならぬ音のスローモーションによく似たものだった。

その後、様々な変化を遂げたステレオと出会うことになるのだが、これもまた曲を聴くまでには一連

の作業が欠かせなかった。ターンに乗せたレコード盤を丁寧に拭き、針のほこりを払い慎重に針を置く。不思議なことにこの面倒くさい作業が少しも苦にならず、この緊張感に包まれた一瞬に心ときめいたものである。

時代も変わり、レコード盤が姿を消しCDが主役になって数十年、再生装置は今もなお進化している。あの面倒な作業もなく操作一つで音楽を耳にすることができるようになった。最近ではカード大の機器に千曲近くも書き込んで、どこでも聴くことができる。音楽は聴くものだから、方法はあまり重要ではないのかもしれないが、聴く目的以外に楽しみ方があつた時代。それらを辿って来た者として、旧き良きレコード文化があつたことを、記憶にとどめて置きたい。そう思いながら、再び聴くことがないであろうレコードを元の場所に戻した。



歴史を語るレコード盤

采女は伝説か、史実か

助川 友里

「安積山影さえ見ゆる山の井の浅き心をわが思はななく」

この歌を知っていますか。「万葉集」に載っている歌です。

今回の地域文化学会で「安積采女の時代」について福島考古学会会長の鈴木啓氏の講演を聴きました。この歌は郡山市の「うねめまつり」のもととなった「采女伝説」



地域文化学会で講演の鈴木啓氏(中央左)

にも書かれているとHPに載っていました。伝説では里長の娘春姫が巡察使葛城王に気に入られ天皇の采女(女官)として都に連れて行かれるも、想う人がいるために入水するという悲恋の物語です。

しかし、講演はこれが伝説ではなく史実なのではないかとの立証がされました。

「万葉集」のこの歌の解説では、元采女の女性が葛城王をもてなしていると話されています。采女とは一度都に行く帰ってくることはありません。ではなぜ、元采女という女性が解説に出てくるのか。ここから「采女伝説」を伝説として見るのではなく、史実として見るきっかけが始まったと鈴木氏は言います。

少し視点を変えるだけで、伝説は史実として立証されました。今回の地域文化学会は、私にそんな視点の教え方を教えてくれました。(短期大学部文化学科一年)

私の三年間

小林 恵美



筆者

私が美術科に入学してから、はや三年の月日が過ぎ去ろうとしています。

入学当初は何もかもが新しく、

楽しい時間があふれていた反面、作品がうまく仕上がらなかったり、不慣れた学校生活での疲れが出てしまったりと、つらいこともたくさんありました。

いつの間にか一年、二年と過ぎて行き、入学した頃に楽しみに待っていた行事はすべて美しい思い出へと変わっていききました。

そして、とうとう三年生になり、三年間の一大イベントである卒業作品展に向けて、クラス全員が忙しい日々を送る時期となりました。そんな忙し中、私が評議員として仕事ができるのは、他でもないクラスの仲間達が、いつも優しく支えてくれているからだと思っています。本当にこの学校に来て、このクラスの一員になれたことが、私の三年間の中で、一番幸せなことだと思っています。

これから卒業するにあたって、今まで支え合ってきた仲間達も、それぞれの進路を歩んでいくことになると思います。

私は四月から、本短期大学部生活芸術科に進みますが、高校で先生方や仲間から学んだことを忘れずにがんばりたいと思います。(高校美術科三年)

私の本棚

玄侑宗久著

『中陰の花』

文藝春秋

鍋山 友子

郡山女子大学短期大学部 講師

この程、父の十三回忌、母の三回忌を終えたばかりであるが、父の死から現在に至る迄に、すぐ上の姉と高校時代の無二の親友も立て続けに失い、忽然として消えてしまった故人の思いや

一般に洗剤や化粧品など化学物質のリスクとは、使用者が障害(ハザード)を受ける確率と考えられています。そこで、ハザード、つまり健康被害の性質、悪影響の程度、発生の確率などを同定し、評価するためにリスク評価が必要となります。その評価の結果を踏まえ、全ての関係者との協議を経てリスク影響の回避

の方策を探る過程がリスク管理といえます。そしてリスク管理の方策として欠かすことができないのがリスクコミュニケーションです。ここでは、リスクに

生活診断室

シリーズ 37

化学物質の使用はリスクと有用性のバランスで!

郡山女子大学 教授 武井 玲子

ちの生活の中で使用されることになるわけですが、それらを使うかどうかは生活者一人ひとりの意思決定にかかっています。

米国では、人工甘味料のサッカリンに「動物実験で発がん性が認められています」と表示されています。それにもかわらずサッカリンを選択する人は糖尿病患者で砂糖摂取による糖尿病の悪化リスクの心配がないサッカリンの有用性(メリット)とサッカリンの発がんリスクとをバランスして、判断しているわけだ。

関する全ての要因について、生活者を含めてあらゆる関係者と意見、情報交換が必要となります。この三段階の過程がリスク分析に關して必要な三要素となりますが、現在必ずしも充分に行われているとはいえません。

このように一連のリスク評価、リスク管理を経た化学物質が私たちの生活で使われている現状、誰もがリスク情報を入手できるリスクコミュニケーションシステムの構築と、過信し過ぎたりむやみに恐ることはせず、自分自身でリスクと有用性をバランスして評価できるようにする(する)ことが、これらの研究、教育課題と考えております。

面影が髣髴として今なお眼前にあり、以来「生と死」を見つめる日々が続いた。

父が亡くなった時は、その魂は何処へ行ってしまったかと街路樹の頂を見上げ、母の時は学園の「虹の橋」のつべん迄一気に乗っかるが、天国に通じる空が近づいたと安堵したものである。

しかし、人間が人間でなくなるという現象と魂は何処へ?という問いは頭から消えず、その時に手にしたこの著書と作者の講演はあたかも自分が経験した故人との別れの場面を強く思い出させ、一字一句、丁寧に読みながら「質量不

減の法則」に興味を持ち納得した。今は亡き親友が、父が他界ししよっている私に「生きていた時は気付かないけど、亡くなってしまうといつてもどんな時でも自分のすぐ傍にいたのよ」と経験者として教えてくれたが、その理由がこれだと確信し、胸が熱くなった。

肉親の死後に大空から差し込む光や虹を見たのもチベット仏教にある「人が死ぬと純粋な光になる」という事であったのだろうか。

恨みも悲しみも大空に溶け込み成仏し純化するという人間の存在を深く考えさせてくれた本である。

おめでとう 開成の杜女声合唱団 全国大会初出場で金賞



写真は東北大会で金賞受賞のステージ

第五十八回全日本合唱コンクール全国大会が十一月十九日、新潟市で開かれ、本学園の杜女声合唱団が大学の部へ出場した。

前日、学長の前で練習成果を披露した一行十七名は、初出場の全国大会にもかかわらず平常心で大舞台へ臨んだ。本短大音楽科の岡部富士夫教授の指揮でヌッフエル作曲のミサ曲「クレド」などを心を一つにして歌い上げた。

その結果、七大学の中から本学が金賞に選ばれ、念願を果たした。福島県内の大学がこの大会で金賞を受賞したのは本学が初めて。

【高原学校裏磐梯で開催】大学短大一
成十七年度高原学校が十月五日から三日間、裏磐梯ロイヤルホテルで開催された。参加学生は五百八十四名。一泊二日の宿泊研修で教師と学生相互の心の交流、触れ合いを深めた。

高原学校教養講座は短期大学部文化学科教授で大学図書館長の竹川重男氏。「人間として生きる」をテーマに女性としての生き方を講話。ローマの哲学者セネカの言葉「如何に長く生きたかではなく、如何に良く生きたか」を引用して締め括った。

日本クラシックコンクール ピアノ部門福島本選会で第位

今年の春、本学音楽科を卒業した国分愛里さんは、十月十五日に三春まほろばホールで行われたクラシックコンクールピアノ部門福島本選会で最優秀賞に輝き、十二月十四日の全国大会へ出場した。

本選会での国分さんはスクリヤビン作曲「幻想曲」を確かなテクニックで、诗情豊かに演奏し、高い評価を得た。

国分さんは今年四月より石川郡浅川中学校で講師を務めている。

定期演奏会ひらく

短大・音楽科

第三十六回定期演奏会は郡山市民文化祭参加行事として十一月十六日、郡山市民文化センターで開催された。出演者はオーデションで選ばれた九名。ピアノ曲やアリア等を清新な演奏で発表し、会場を埋めた約三百名のご父兄や卒業生に感銘を与えた。



高度なテクニックで演奏する学生

明るい選挙啓発ポスター 本高服部里美さん 大臣賞

都道府県選挙管理委員会連合会の明るい選挙啓発ポスター中央審査で、本高美術科三年服部里美さんの作品が最優秀となる文部科学大臣・総務大臣賞に選ばれた。

高校の部には全国から百五十点の応募があった。

高校教育資料表紙イラスト 本高柏倉静香さん入選

日本損害保険協会の情報誌「高校教育資料」の表紙となるイラストコンクールで、本高美術科二年柏倉静香さんの作品が入選した。

全国から四百六十二点の応募があり、四点が入選。柏倉さんの作品は来年の夏季号表紙を飾る。

エゴマとヤーコンの料理コンクールで 川上優子さん 最優秀賞

本県特産のエゴマとヤーコンを使った創作料理のコンクールが十一月十九日二本松市で開かれ、応募作四

十三点から予選で選ばれた八人が実技で調理した。

その結果、本学職員で管理栄養士の川上優子さんの作品「ヤーコンをデザートにした「ヤーコンにちわいん煮」」が最優秀賞に輝いた。

なお、優秀賞には本学から中村真智子さん、岩沼菜穂子さん、大須賀志穂さんが入賞した。

料理コンクール全国大会で 優良賞 短大・鈴木美保さん

牛乳や乳製品を利用した料理のコンクール全国大会が十一月十二日と十三日東京で開かれ、福島県代表として出場した鈴木美保さんの作品「野菜をつめたゴーヤグラタン☆」が優秀賞に選ばれた。

鈴木美保さんは本短大食物栄養専攻一年。県大会で最優秀賞、県知事賞を受賞しての全国大会出場。

特選一席に田崎晴香さん(短大) 県南美術展で受賞

第五十六回県南美術展(九月二十九日〜十月二日開催)で最高賞となる特選一席・県南美術賞に本短大二年の田崎晴香さんの作品「見えない力」が入賞した。

この他、青少年奨励賞としてリキテックス絵具賞に小野晴美さん(同、短大二年) 県南美術賞に清野美佳さん(附高) マツダ絵具賞に佐藤理恵さん(附高) が入賞した。

非行防止ポスターで 本高高橋亜侑美さんが最優秀賞

少年の規範意識の向上と非行防止に活用する目的で実施された「ハートフルつくしまポスターコンクール」で本高美術科三年高橋亜侑美さんが高校・一般の部で最優秀賞を受賞した。「私の足を返せ!」と題した作品は自転車盗難防止を呼びかけたもの。

このほか、優秀賞に小林恵美さん(三年) 遠藤未来さん(二年) 佳作に菅原美幸さん(三年) が入賞した。

同窓生の絆 固く 学園六十周年へ向けて結束

本大学、短大、それに附属高校の三同窓会の総会が九月十一日、郡山ビューホテルアネックスで開催された。約百二十名が出席した。

各同窓会ごとに総会を開き前年度の事業報告を承認し、次年度の事業計画などを決めた。

引続き開かれた合同懇親会では佐藤広子高校会長が「同窓生の絆を固め、結束をもって母校の発展に力を出し合おう」と挨拶。関口学園長は「学園は来年六十周年を迎える。三同窓会と連絡を取り合いながら、学園発展を目指したい」と更なる飛躍に期待を込めた。



出席者全員で記念撮影

先輩を訪ねて



瀬谷 有美子さん

●平成16年度短大生部家政科福祉情報専攻卒業
●愛の家グループホーム 郡山日和田メディカルケア

幼いころから祖父母にかわいがられて育ってきた瀬谷さん。本短期大学部家政科福祉情報専攻に進学後、一時、教員の道に進むかどうか迷

われたそうですが、お年寄りが大好きでいつか恩返しをしたいと思っていたことから、グループホームの介護職に就きました。

「私の仕事は、グループホームで暮らしている入居者の生活を支えることですので、家政科で学んできた裁縫、料理、掃除、洗濯はもちろん女性としてのマナーやパソコンなどはとても強い武器になっていますね。」

介護には正解というものがなく、その方に合っているかいないかでスタッフの意見に食い違いが出て戸惑うこともありますが、毎日の生活のシーンで入居者の皆さんの顔が輝くのを見るとすこしくれしくなります。」

学生時代は、自分が興味をもったものには何でも挑戦し、授業にボランティア活動、バイトなど、とにかく忙しい日々だったと、瀬谷さん。今は、介護福祉士の資格取得をめざされているそうです。

「将来の仕事について迷っている人もあるかと思う。授業が自分にとって無意味に思えるときもあるかもしれないが、その内容は自分の教養を確実に高めていきますし、社会に出てからは必ず活かされます。そして、自分が関心をもったいろいろなことにチャレンジしていくなかで、バツと自分の進むべき道が開けるときがきます。それまではどうか頑張ってください。」と、元気が出るアドバイスをいただきました。

第百四十九回芸術鑑賞講座

ふるさと伝統芸能・郡山柳橋歌舞伎公演
古くて新しい郷土芸能

福島県の中央、郡山市から東へ車で四十〜五十分の山間に広がる中田町柳橋地区に江戸時代から伝わる伝承芸能「柳橋歌舞伎」を本学へお招きしての第百四十九回芸術鑑賞講座が十月二十六日建学記念講堂大ホールで開催された。

農民が中心となって演じられてきた氏神様への奉納

歌舞伎。昭和五十八年郡山市指定重要文化財に指定された「農民歌舞伎」を学生、生徒が鑑賞した。

当日は舞台清めの「寿三番叟」の後、源平の戦いで平家の退路を物語った「一之谷嫩軍記」須磨ノ浦



須磨ノ浦船討ちの一場面



舞台上に飾られた衣装の数々

組討ちの場が演じられた。保存会員が役者と裏方に分かれ、三百年にわたって引き継がれてきた手作りの伝統芸を披露した。

舞台袖には郡山市指定重要有形民俗文化財に指定された歌舞伎衣装十七点のうち、八点が展示された。趣のある舞台衣装を学生、生徒は興味深く見入っていた。

第五十九回「もみじ会」で高校の体育館を飾った巨大アート。三年生全員の連帯により、二万枚の色紙を使った努力の結晶。制作実行委員長の佐藤美幸さんによると「三年生全員で話し合った結果、ピクアートという案が出ました。みんなから集めた案を一つにして原画ができました。その原画を十二クラスに区分し、それぞれのクラスに、私たちが卒業時に飛び立つ象徴の鳩を配置し、鳩の口には幸せの扉を開く鍵をくわえさせました。リボンはクラス担任の好きな色です。」



ピクアートを前に三年生全員集合

家庭寮親睦いも煮会が例年どおり安達太良山麓の県民の森で行われた。参加者は学園バス一台に分乗し目的地へ。到着するやいなやいも煮バーベキュー等のグループに分かれて大奮闘。鍋奉行も登場して、ほどなく美味しい匂いが山内に広がった。

「腹八分目も今日はご法度」と寮生はにこにこ顔で会食を楽しんだ。食事の後は一、二、三号館の親睦を図るドッジボールやパン食い競争等に興じ、いい汗を流し、秋のいも煮を満喫した。



バーベキュー担当の寮生たち

「リサイクルともしたいないキャンペーン」でボランティア

郡山市主催によるゴミゼロキャンペーン「リサイクルを考えるステージ」が十月二十二日、イトーヨーカドー郡山店で開催され、短大保育科学生有志六十九名がボランティア活動の一環として参加、好評を博した。このキャンペーンへの参加は九年度。保育科の学生が日頃学んでいる表現活動での体験を生かし、「ボー捨て防止」やリサイクルの大切さを訴え続けてきた。本年は、ハンドベルやオペレッタ、リズム体操、うた遊び等を通して「もったいない運動」のキャンペーンもしていた。



キャンペーンを盛り上げる保育科生

幼児のこころの世界にふれる

第十二回「ぼくとわたしのさくひんてん」

十一月十二日から三十日の六日間、附属幼稚園の「ぼくとわたしのさくひんてん」が建学記念講堂ギャラリーで開かれた。

年少組四十五名、年中組六十名、年長組六十五名の作品が展示された。子供達が絵の具を使って自分の好きなものをのびのびと表現し、色彩豊かで賑やかな作品が並んだ。



創造的な作品が並ぶ園児の絵画展

附属幼稚園

木もれ陽

美しい個性の競演ともいえる紅葉は、終りを告げたが、その訪れは観測史上最も遅く、北海道、東北などの観測地点でこれまでの記録を塗り替えたという。遅れた原因は、秋のまにみえる高い気温と朝晩の冷え込み不足であったという。つまり、地球温暖化の影響である。

ところで、周知のように、「二酸化炭素などの温室効果ガスによる地球温暖化が世界規模で異常気象を引き起こしている。二〇一〇〜一四年度の間に、ヨーロッパの熱波、アフリカの干ばつ、東アジアの台風、アジア南部の大雨・熱波・台風、オーストラリアの干ばつ・台風、北アメリカのハリケーン、南アメリカの大雨などが発生し、多数の犠牲者を出した。これらはみな温暖化が原因とみられる。」

折しも、地球温暖化にストップをかけるための国際会議が一五六の国と地域の参加を得て十一月二十八日からカナダのモントリオールで開かれた。各国の利害、思惑を超えて、地球の自然を護るために有効な世界の温暖化対策が策定されることを期待したい。

言うまでもなく、大気、水、土地、植生などから成る自然は人間にとって決定的ともいえる重要性をもつ。ある経済学者がその点について「人間は文明人であるが、未開人であらうと、自然の子供であり、主人ではない。」と書いている。この文の「自然の子供」という表現の中に、人間が自然にいだかれ庇護され、自然から生をうけていることがはつきりと示されている。

地球温暖化に対応しなければならぬ理由も正にここに存するのである。

(編)

本学所蔵 紙上美術展 49

彩箔「響」 江面 忠信



シルクスクリーン 金箔砂子張り

江面忠信氏は、一九五九年東京生まれ。十六歳の頃から金箔砂子の技術を学ぶ。立教大学を卒業したあと彩箔画の制作に励み、一九八六年から毎年東京銀座のギャラリーで個展を開催する。一九九五年、銀座ミキモトホールで「金銀箔の飛翔」装飾料紙と

彩箔「江面弥生・江面忠信親子二人展」を開催、注目される。同年、本学園第百七回芸術鑑賞講座で「装飾料紙と彩箔の美」として父子展を開く。彩箔画のネーミングは忠信氏の作品にのみ使用される。学園所蔵品の中から、今回は「響」を紹介する。